

教室紹介

京都大学乳腺外科は乳腺疾患を専門に扱う診療科として平成19年2月から、外科学講座の一分野としてスタートしました。乳癌を主対象に診療、教育、研究を行っています。

乳癌治療においては、種々の治療法を組み合わせる集学的診療が進んでいます。同時に治療の個別化も著しく進化しています。その結果、著しい予後の改善が得られています。

当科では、集学化と個別化、低侵襲化を考慮した先進的治療を実践しながら、乳癌に関する様々な状況に対応できるように、関連の各科との連携システムを整えています。特に形成外科との連携による乳房再建、遺伝子診療部との連携による遺伝学的診療、放射線治療科との連携による各種放射線治療、放射線診断科および病理診断科との連携による診断などは進化を続けています。

医師主導治験、臨床研究などにも取り組み新しい治療、診断開発を目指しています。腫瘍免疫、血液バイオマーカーなどの基礎研究にも取り組み新規知見の発信を目指します。

京都大学外科専門研修

<目的>

・専攻医に必要な基本的/専門的診療能力を習得すること。

・外科領域全般からサブスペシャリティ領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動する。

・乳腺領域では、乳腺疾患の知識、技術を習得したのちに、連携病院にて外科専門医取得に必要な一般外科の知識、技術を習得する。

<プログラムの特色>

・幅広い環境を有する教育施設群

京都大学医学部附属病院を基幹とし連携病院には都市部の中核病院から地域の中核病院まで様々な環境の研修施設を有しています。

・屈指の手術数

グループ全体では年間10,000件を超える手術が行われています。

・専門性の高い指導医陣

・女性医師支援

女性医師は年々増加しており約8%を占めています。性別にかかわらず就業・キャリア形成ができるよう連携施設とともに取り組んでいます。また、女性医師が働きやすい環境整備にも努め離職率0%を目指します。

乳腺専門医プログラム (卒後6年以降)

<目標>

乳腺疾患、特に乳癌に関する知識と乳腺診療に必要な技術の習得を目指します。

乳腺疾患領域の研究にたずさわりながら診療に必要な幅の広い専門知識、技術を習得し、新たな診療概念や手法を開発できる能力を身につけることによる信頼の医療を実践する医師の育成を目指しています。

<プログラム>

外科専門医取得ののち、**乳腺専門医**取得に必要な臨床、研究が行えるようなプログラムを構成しています。

次代を先導するがん医療の専門家の養成に力を入れます。多様なニーズに対応ができる人材、患者のライフステージに応じた診療ができる医師の育成に心がけています。さらに、新しい乳がん診断治療法を開発できるようなイノベティブな人材が育つ環境整備をしています。グローバルに活躍できるように、海外での発表や研修の機会を準備しています。

スタッフ紹介

戸井雅和教授を筆頭として、高田准教授、川口特定病院助教、川島助教、松本特定助教、河口助教、山口医員、藤野医員、岩野医員、服部医員、が診療・教育・研究を行っています。

研究室では研究員および大学院生11名(4回生2名、3回生4名、2回生1名、1回生4名)がそれぞれのテーマで研究を行っています。

医員Q&A

- Q1 京大乳腺外科の魅力は？
A1 和気藹々とした雰囲気と確かな指導力を兼ね備えたスタッフ陣が、1から丁寧に乳腺外科の最先端まで教えてくださいます。
- Q2 乳腺外科でどんなことが学べますか？
A2 外科の基本領域として外科医としての基礎を学ぶだけでなく、薬物治療をはじめとする腫瘍内科の考え方、様々な種類の画像・病理像に対する読影力、放射線治療科・形成外科・整形外科など多くの科との連携など、全科の知識を総合的に深めることができます。
- Q3 乳腺外科を選んだ理由は？
A3 1人の患者さんを診断から治療、長期フォローまで主治医として向き合うだけでなく、検診から終末期に至るまで様々な状態の患者さんに関わることができるため。そして何より、臨床・研究領域ともに最もHOTな分野となるため！
- Q4 将来乳腺外科を考えている後輩に一言
A4 後悔はさせません！日本における乳癌治療の中心的存在である京大乳腺外科で、新しい時代と一緒に築きましょう。

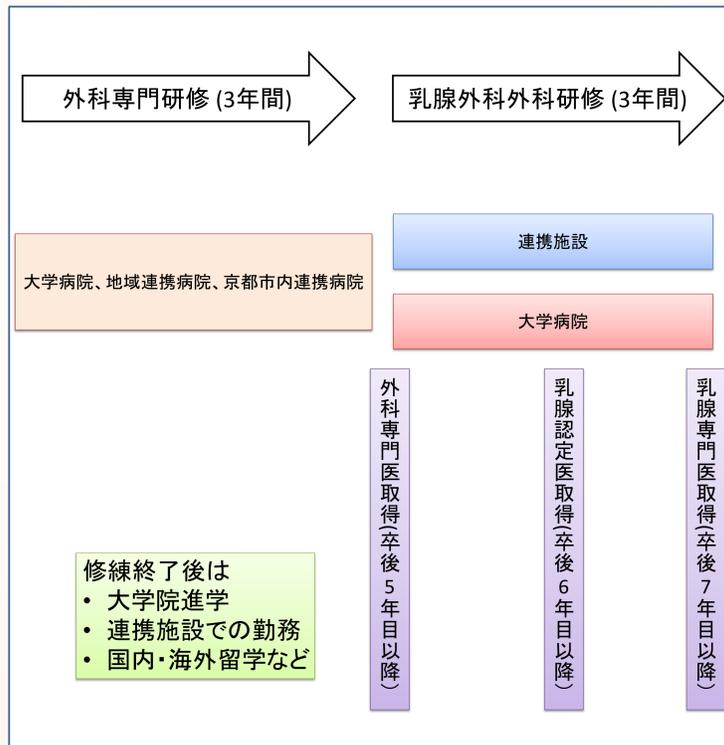


電話: 075-751-3660

E-mail: nyusen@kuhp.kyoto-u.ac.jp

HP: <http://www.brca.jp/>

プログラム概要



大学院(研究室)

乳癌治療の最適化・個別化を目標に、癌組織における遺伝子増幅や遺伝子変異、蛋白リン酸化、遺伝子多型、免疫応答等を解析し、癌の特性と宿主の条件に応じた治療法選択のためのシステム作りを目指しています。

新しい外科手法の開発や、家族性乳がんについて研究と臨床に力を入れて取り組んでいます。

早期診断マーカー、予後、効果の予測ツールの研究を行っています。

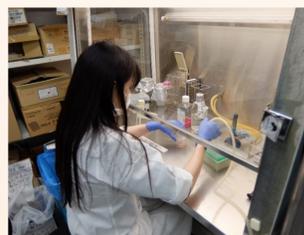
臨床サンプルと臨床情報をこれからの研究に活かし、新たな診断治療法の開発に役立てるため、関連の病院研究施設とともにバイオバンクの構築と運営に力を注いでいます。

研究テーマ

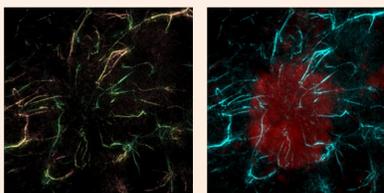
- ・分子標的治療(HER、ERなど)の効果増強、治療抵抗性に関する研究
- ・乳がん免疫に関する微小環境研究
- ・乳がん患者血清中のN型糖鎖プロファイリング解析の研究
- ・新しい診断法開発(光超音波マンモグラフィ)、新規治療法開発、及び低侵襲性外科治療開発のための研究
- ・ゲノムシーケンスを行い、clonal evolutionの観点から発癌過程を解明する研究
- ・次世代シーケンサーを用いた家族性乳癌・散発性乳癌における遺伝性素因に関する研究



研究室ミーティング



細胞実験室



光超音波画像診断装置の開発



循環血中腫瘍細胞(CTC)の測定と解析